

# 信州読書会 ツイキャス読書会

## 課題図書 オルダス・ハクスリー 『すばらしい新世界』

信州読書会では、毎週、ツイキャスをつかった視聴者参加型の読書会を開催しています。

信州読書会のメルマガ登録者は、課題図書の読書感想文を 800 字で書いていただければ、放送中に紹介します。

(募集要項はメルマガでお伝えします)

また作品に関する質問・感想などは、どなた様も、放送中ツイートいただければ、とりあげます

信州読書会 ツイキャス <http://twitcasting.tv/skypebookclub>

『信州読書会』メルマガ登録はこちらから [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=714](http://bookclub.tokyo/?page_id=714)

今後のツイキャス読書会の予定です。 [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=2343](http://bookclub.tokyo/?page_id=2343)

『ツイキャス読書会』音声のバックナンバーです。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLVj9jYKvinCsgP7jtFgzqxea6cgqd7mrf>

(各回の感想文は動画の下の説明欄に PDF へのリンクを張っております。)



第 81 回のツイキャス読書会の課題図書は、オルダス・ハクスリーの『すばらしい新世界』です。

読書感想文を提出して下さった皆さんありがとうございます。

## 「ユートピアかも？」

「1984年」に続いて「素晴らしい新世界」は私にとってとても難しい内容だったが、私にディストピア小説という初めての読書体験をさせてくれた。半分も理解してないかもしれないが、感情移入した部分を書いてみたい。

私は辛いときこんな事を思った経験がある。

「いっそ記憶喪失になれたら辛いのに」

「このまま時間が止まって未来なんてこなきやいいのに」

人は辛いことがあると、まだ来ぬ未来を憂たり、過去の後悔に心を囚われて、今という時間を生きれない苦しみをもち。

「過去も未来も気鬱のもと」

ソーマ1グラムで現在だけに。

なんて素敵なんだろう。

この小説はディストピア小説じゃなくユートピア小説なのではないか？

わたしはそう思ってしまった。

全てが管理統制され、人は人生を選択することがない。だから人生の選択に悩まない。

家族制度がないからそれを求めることもない。だから孤独を感じない。人間関係のしがらみやトラブルがない。

このように一見平和にも思える文明社会は個人というものは排除され、そこに苦痛を感じないように、条件付けの睡眠教育やソーマを使って幸福を感じるように徹底管理されている。

そんな文明世界に野人がもとめたものは何だったのだろうか？

「何かを強く感じたい。

誰かになるのは嫌だ。

僕は僕でありたいと思う」

私は野人とは、どんな手段を使ったとしても、コントロールができない根源的に人間に備わっている魂の様なものを示しているのではと感じた。

どんなに管理されていても、ソーマが切れてしまえば、文明人でもたちまち恐れや不安な気持ちに支配されてしまう。完全に人の気持ちを支配することは不可能なんだと思った。

何年前かに癌で亡くなった叔母は、最後の苦しみを取り除く意識がなくなる医療用麻薬を拒否し、最後まで自分をなくしたくないと言って亡くなった。リンダは臨終の時何を思ったのだろうか？ (おわり)

## 『すばらしい新世界』 感想文

人間は所詮、受けた教育と所属しているコミュニティから離れることができないと思った。条件付けされていないジョンは一見自由で柔軟な思考ができるように見えるが、彼も結局保護ゾーンで形成された考えやシェイクスピアという世界に閉じ込められているだけだ。彼に自分の意見や思想は存在しない。悲劇の台詞を鸚鵡返しに繰り返すのが精一杯で、その真似だけをした挙句、愛していた人を娼婦呼ばわりして殺し、自分も悲劇の如く自殺した。

ジョンは苦しみや悲しみを知らない文明人を軽蔑した。ソーマを欲しがる彼らに自由のことを唱えたりもした。私はここで読書をする人が読書をしない人に対する態度を見るように感じられた。我ら読書野人は(少なくとも私は)、ゲームやネットなどに嵌り姑息な安定を求める文明人を毛嫌いだ。でも、本の中でしか考えられなくなったジョンのようになっては、ソーマを飲んで幸せに浸っていたほうがマシではないかという気にもなった。大事なものは、権威や常識と呼ばれていることに疑問を持ち続けることではないだろうか。本を読んで鵜呑みにするのではなく、自分で工夫し、疑ってみること。

バーナードも、ワトソンもレニーナも皆それぞれ新世界に疑問を抱いていたが、それをちゃんと思考する知識や力量を持てなかった。でも私たちはまだその力を養える時代にいる。そしてジョンより多様な書籍に触れられる。でもそれだけソーマ漬けにされることも、ジョンのような末路をたどることもできる時代にいると思う。

世界は早いスピードで素晴らしき新世界へと向かっている。伝統的な価値観、倫理、道徳などが書き換えられつつある。哲学や宗教は蔑ろにされ、即物的で五感で感じられることがどんどん支持を得ている。いくら嘆いても何も始まらない。未来は誰も知らないし、この世で正解はないのだ。私たちにできるのは、悩むこと、答えが出なくても何度も苦労してソーマなしでこの世を切り開いていくのではないかと思う。

(おわり)

スミカズさんの主宰する 炭山 韓国読書会のブログとツイキャスです。

ブログ <https://ameblo.jp/shimogashiwa>

ツイキャス <https://ssl.twitcasting.tv/c:nindaranna>

## 明るい未来

大都会は真実ではない それは欺く  
昼を 夜を 動物や 子供を。  
大都会は沈黙でいつわり 騒音や  
従順な事物でいつわるのだ —リルケ著(抜粋)

大都会＝社会が最大幸福を追求すれば、NEW WORLD に辿りつくだろう。世界はバーチャルなもので形づくられ、わたしたちは嘘で欺かれているはずなのに、ここではなぜか疑うことを忘れて微細で克明なリアリティを持って迫ってきた。

オルダス・ハクスリーが86年前に描いた未来は、とても合理的で統制のとれた安心安全な桃源郷。明るいディストピア小説はブラックジョーク満載なのだけど、そこで笑ってはいけないと自制心がブレーキをかけてくる。この本はあまり人に薦められないな、特に女性の友人には。薦めるときには「人を選ぶ」。そう思う時点でかなりムスタファにやられている。

沈黙した大都会が考えていることは怖い。従順になるために与えられたドラッグが連れていってくれる「ソーマの休日」は、思考をリセットするのに理想的な装置であり、哲学も宗教もいらぬ悩みのないすばらしい人生だと言う。苦悩も孤独も痛みもない人工的な世界だった。

しあわせこそが絶対善。

ここでのしあわせに、一人の時間は与えられていない。だとするとその「しあわせ」なんて羨ましくない。わたしには、孤独が必要。ただぼんやりと一人の時間を持つことに愛おしさを感じているから。そして人が大勢で群れているときになにかにつぶされそうな怖い気持ちになるから。

ジョンは死を選んだ。人としての尊厳のために。

自分の尊厳が問われる場面に出会ったとき、わたしはなにを選択するだろう。孤独が好きだと言いながら、一人で島へ流される覚悟は持っているだろうか。後悔しない人生を歩むために、自分をつらめく選択肢をいつも考えなくてはいけないと宿題がまた増えた。

本を読み終えたばかりでまだ消化しきれておらず、今感じる胸の痛みは切れ味のよいシニカルさにかなりやられたということ。ソーマはいらぬけど、副作用つきのスコッチを一杯飲ませてください。あくまでも思考するためですよと、言い訳しながら。煌々と照らされた明るい未来が怖い。苦笑

(おわり)

## 『瓶の子』

この世界では、父や母という言葉事態がタブーとされていて、子供はすべて瓶の中で育つという異常な事がされていてとんでもない世界だなと最初思いました。

まるで、工場で大量生産されているモノと変わらないなと思いました。

現実の世界では、結婚しなきゃ、子供を産まなきゃとか努力の範囲を越えた事で悩む人も多くて、出産率も低下して人口が減っているという状況で、体外受精や代理母など、技術も進歩していて、『瓶の中の子』との違いは何処なんだろうと考えさせられました。

命は人間の自由にしても良いものなのか？

でも、これからの世界の為には必要な事でもあるのかな？と思ったりしました

すばらしい新世界は、恐ろしい世界でもあるけど、もしそういう世の中で生まれていたら、色々な事に疑問を持たないように条件付けされていたら何も変だと思わずに毎日をソーマのような薬を飲みながら過ごして行くんだろうなと思いました。

でも、すばらしい新世界は完璧な世界でもなくてバーナードが瓶の中のにいる頃アルコールが混じってしまってそれが原因で容姿にコンプレックスを持っているけど、だからといって処分されていないから他にもバーナードのような不満を持った人が増えたらこの世界は終わるのかもしれないなと思いました。

私も、今の世の中は最高だとは思ってはいないけれど、でもそれなりに楽しく過ごして特に社会を変えようとか強い気持ちも持っていないくて、それはすばらしい新世界に住む人たちと変わらないのかもしれないなと思いました。

(おわり)

## 『 プライゼロ 』

生殖医療の発達で、1932年発表時の人々より、第1章の一卵性多胎児のボカノフスキー化の記述は免疫があるはずだが、それでも度肝を抜かれる。こんなに、システムティックに生殖が管理されれば、人間に起こりうるほとんどの問題から解放される。なぜなら、生殖に伴う恋愛、結婚、家族、死…の問題だ。これらの問題がなければ、文学や哲学が要らないは納得できる。夏目漱石や志賀直哉もあがったりだ。

今の世の中、ある程度ひとりで生きていけるが、「死」だけはどうしようもない。以前、地元出身の91歳の俳優が亡くなった際、喪主が「姪の夫」だった。しかし、この小説世界では「死」の問題さえクリアだ。宗教さえないのだから、葬式のような儀式も関係ない。では、フォードの世界がいいのだろうか…？

私の友人が妊娠の相談に病院に行くと、不妊治療を勧められた。辛い採卵を乗り越えて、受精卵になったのは6個だったらしい。状態のいい受精卵から子宮に戻すのだが、すぐに着床するとは限らない。友人は「結局ね、5番目の卵だったんだあ。」と自嘲気味に語る。受精卵にも番号がつくのだ。ボカノフスキー化と何が違うのだろう。海外では、すでに受精卵レベルで男女、障害や病気の有無を選別でき、日本からも希望者が多い。日本ではまだ倫理的に受精卵の選別はできないからだ。医療も科学も進歩は果てがないし、ある意味人間の欲だが、すがりたい気持ちは理解できる。そこで、人間としての葛藤や苦しみが生まれるのだ。

しかし、フォードの世界は「しあわせ」を優先して、科学も経済の発展や人間の感情さえも管理する。パンドラの箱から飛び出した人間の負の感情からの解放だ。「しあわせ」でないといけない世界なんて、一見羨ましいが、やはり「犠牲」を払っているのだと世界統制官ムスタファ・モンドはいう。でも「しあわせ」って相対的なもので、「苦」がないと感じられないものだ。結局、フォードの住人は誰ひとり「しあわせ」ではないのかもしれない。だからこそ、私自身はソーマは飲みたくない。副作用がないのは魅力的だけど。

現在の我々の持つ感情や価値観は、すべて自らが作り上げたものだろうか…とふと思う。今となっては、ライフラインが整わないところには住めないし、男尊女卑や軍国主義には戻れない。レーニナのように、自らの感情を自らで支配していると勘違いしているだけのような気がして、身震いがした。

(おわり)

岡山読書会のブログです。過去のコラムなども掲載されています。ぜひご覧ください。

<http://ameblo.jp/kaoru8913/>

スカイプで個別読書を主催されています。ご興味ある方はブログからお問い合わせください。

ツイキャスのチャンネルはこちら <https://twitcasting.tv/yuuki27144>

# 「現象の没落としてのユートピア」

『すばらしい新世界』とは、人間から意志を奪い去り、有機野菜を育てるように人間を思いのままに培養する世界である。

(引用はじめ)

**意志は死によって知性の喪失を蒙る。意志はここで没落してゆく現象の核心であり、それは物自体として不滅のものである。** ショウペンハウエル『自殺について』 岩波文庫 P.24

(引用おわり)

野菜は腐っても知性の喪失は被らない。しかし、人間は、死によって、この世に知性を手放していく。ただ、著作などによって、この世に知性を残すことはできる。ネズミがかじったシェイクスピア全集のように、後世に残されていく知性がある。

『すばらしい新世界』は、ぺらっぺらの『おもちゃの王国』に似ている。ソーマ・フリーセックス・感覚映画という、アトラクションをメインとした安物のネバーランドであり、現象の没落だけが、延々と続くディストピアである。

ここでは人間は、適度に労働して、いまある社会秩序を維持し、余った時間を消費や快楽の追求に充て、30歳位の肉体的な条件で健康を維持しながら、60歳でパタリと死ぬ。

こんなにせもの世界が、なぜ存在しなければならないのか？

滅んだほうがむしろ、いっそ幸福なのではないか？

この問の答えは、ムスタファだけが知っている。

世界の核心は、ジョンやリンダが住んでいた野人保護区域にあるのだ。

『すばらしい新世界』はどこまでも現状維持のコントロールされた世界である。コントロールというのは、コントロールを失うリスクを抱えている。条件というのは、無条件を前提として、はじめて意味を持つ。

ショウペンハウエルが師と仰いだ哲学者カントがテーマにしたとおり、『自由・魂の不死(永遠)・神』という3つのコンセプトは、『無条件』に関わっている。それは、意志の核心だ。

意志の核心は、野人保護区域に保存され、現象の没落は、『すばらしい新世界』が担当している。

無条件の不幸な世界と、条件づけされたすばらしい新世界。

この分断された2つの世界の境界線の上に、現実存在(実存)としてのこの私がいる。

(おわり)

『信州読書会』メルマガ登録はこちらから [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=714](http://bookclub.tokyo/?page_id=714)  
今後のツイキャス読書会の予定です。 [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=2343](http://bookclub.tokyo/?page_id=2343)